

令和6年度 草加市立青柳中学校 第1学年 美術科シラバス

○教科の学習目標

- ・事象を捉える造形的な視点や社会との関わりを理解し、表現方法を工夫し、創造的に表すことができる。
- ・造形的な美しさ、表現の工夫、美術の働きについて考え、主題から試作を通じて発想し、美術に対する見方や感じ方を深めることができる。
- ・美術活動の喜びを味わい、愛好する心情を育み、感性を豊かにし、適切に心豊かな生活を創造していく態度を養う。

○評価の観点・資料・評定

【評価の観点】

次の3つの観点についてA・B・Cで評価します。

- ①知識・技能
- ②思考力・判断力・表現力
- ③主体的に学びに向かう人間性

【評価の資料】

- ①制作過程・作品等
- ②アイデアスケッチ・スライド等
- ③授業中の取り組み・振り返り等

【評価】5・4・3・2・1

観点別評価を総合して、学期ごとに5段階で評定します。1年間を通して、3学期に5段階で学年評価も行います。

○教科の学習の方法

- ・自分なりの表現を見つけて楽しむ。
- ・題材の中に選択できる場を準備する。
- ・表現と鑑賞のバランスの取れた活動を進める。

	学習内容	学習のねらい
一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・美術を通して学ぶ大切なこと ・文字で楽しく伝える ・見つめ、感じ取り、描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作活動への興味・関心をもち、意欲的に取り組む姿勢を身につける。 ・忘れ物をせず、毎時間積極的に取り組む。 ・より構想を考えて発想を広げ、形や色を工夫して文字をデザインする。 ・身近なものを見つめ、感じ取った特徴をどのように表したいか考えて工夫して描く。
二 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻動物園 ・形や材料を比べてみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の形や質などの特徴をもとに、材料の組み合わせを工夫して制作する。 ・様々なカップを鑑賞して、使う場面や目的による材料や形の違いを感じ取る。
三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを伝えるデザイン ・生活をいどころ文様 ・風神雷神 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的をもとに発想を広げ、工夫してデザインする。 ・自然物や日用品から発想を広げて、文様に込められた願い、生活との関わりを感じ取りデザインする。 ・作品を比較して、それぞれのよさや違いについて理解し、作品の見方や感じ方感じ方を広げる。

令和6年度 草加市立青柳中学校 第2学年 美術科シラバス

○教科の学習目標

- ・事象を捉える造形的な視点や社会との関わりを理解し、表現方法を工夫し、創造的に表すことができる。
- ・造形的な美しさ、表現の工夫、美術の働きについて考え、主題から試作を通じて発想し、美術に対する見方や感じ方を深めることができる。
- ・美術活動の喜びを味わい、愛好する心情を育み、感性を豊かにし、適切に心豊かな生活を創造していく態度を養う。

○評価の観点・資料・評定

【評価の観点】

次の3つの観点についてA・B・Cで評価します。

- ①知識・技能
- ②思考力・判断力・表現力
- ③主体的に学びに向かう人間性

【評価の資料】

- ①制作過程・作品等
- ②アイデアスケッチ・スライド等
- ③授業中の取り組み・振り返り等

【評価】5・4・3・2・1

観点別評価を総合して、学期ごとに5段階で評定します。1年間を通して、3学期に5段階で学年評価も行います。

○教科の学習の方法

- ・自分なりの表現を見つけて楽しむ。
- ・題材の中に選択できる場を準備する。
- ・表現と鑑賞のバランスの取れた活動を進める。

	学習内容	学習のねらい
一学期	・風景に思いを重ねて	・思い出の風景に、自分の感じたことをどう工夫するか考え描く。
二学期	・銅板のお皿を作ろう ・レオナルドとその時代 ・季節感のある暮らしを楽しむ	・金属の銅を曲げたり、打ち出したりして、銅の特性を生かした制作をする。 ・作者や作品の背景をもとに、表現の意図や工夫を感じ取る。 ・季節や動植物をもとに発想を広げ、形や色を工夫してデザインする。
三学期	・あかりが作る空間	・光の効果を考えながら材料の特徴を生かし、あかりをつくる。

令和6年度 草加市立青柳中学校 第3学年 美術科シラバス

○教科の学習目標

- ・事象を捉える造形的な視点や社会との関わりを理解し、表現方法を工夫し、創造的に表すことができる。
- ・造形的な美しさ、表現の工夫、美術の働きについて考え、主題から試作を通じて発想し、美術に対する見方や感じ方を深めることができる。
- ・美術活動の喜びを味わい、愛好する心情を育み、感性を豊かにし、適切に心豊かな生活を創造していく態度を養う。

○評価の観点・資料・評定

【評価の観点】

次の3つの観点についてA・B・Cで評価します。

- ①知識・技能
- ②思考力・判断力・表現力
- ③主体的に学びに向かう人間性

【評価の資料】

- ①制作過程・作品等
- ②アイデアスケッチ・スライド等
- ③授業中の取り組み・振り返り等

【評価】5・4・3・2・1

観点別評価を総合して、学期ごとに5段階で評定します。1年間を通して、3学期に5段階で学年評価も行います。

○教科の学習の方法

- ・自分なりの表現を見つけて楽しむ。
- ・題材の中に選択できる場を準備する。
- ・表現と鑑賞のバランスの取れた活動を進める。

	学習内容	学習のねらい
一 学 期	・ 空想の世界へようこそ	・ 現実にはないことを想像して、空想の世界を工夫して表す。
二 学 期	・ 祈りの造形 ・ 今の自分、これからの自分 ・ ゲルニカ	・ 作者や作品の背景をもとに、表現の意図や工夫を感じ取る。 ・ 自分を深く見つめ、今や将来の姿を工夫して表す。 ・ 作者や作品の背景をもとに、表現の意図や工夫を感じ取る。
三 学 期	・ メッセージを伝える	・ 絵や文字などを組み合わせて、形や色を工夫し、相手に伝わるデザインをする。